

大腸(結腸)内投与用

手術基本情報

- 系統：Cri:CD(SD)
- 性別：雄・雌
- 週齢：6-8週齢
- 手術時間：20-25分
- 術後観察期間：2日間
- 微生物グレード：ジャクソンラボラトリージャパン SPF項目
- 麻酔薬：ケタミン・キシラジン混合麻酔薬
- 鎮痛剤：ブプレノルフィン 0.01-0.05mg/kg S.C. SID 手術当日のみ
カルプロフェン 5mg/kg S.C. SID 手術当日から術後2日まで
- 抗生物質：投与なし(必要に応じて投与)

カテーテル情報

- 素材：ポリウレタンチューブ Access Technologies/Norfolk Medical Products, Inc
- 型番 サイズ：BC-3.5P(ID:0.6mm/OD:1.1mm)
- ゲージサイズ：22G
- カテーテル先端形状：フランジ
- デッドボリューム：約50 μ l (手術動物証明書に記載)
- 充填剤：生理食塩水

処置概要

1. 体重測定及び一般症状観察を実施後、ケタミン・キシラジン混合麻酔薬を腹腔内に投与する。
2. 下腹部及び頸部背側を除毛し、イソジン液及び70%エタノール液を用いて術野を消毒する。
3. 頸部背側及び下腹部皮膚を正中切開後、腹部筋層も正中切開し、盲腸を露出する。
4. 針付縫合糸を用いて盲腸(結腸側)に巾着縫合する。
5. カテーテル挿管部を切開後、カテーテル挿入、巾着縫合を絞ってカテーテルを固定する。
6. カテーテル留置後、生理食塩水にてリークテストを行う。
7. 縫合糸にて腹部筋層を縫合する。
8. カテーテル誘導管にてカテーテルを頸背部まで導き、背部筋層とカテーテルを縫合糸にて結紮固定し、クリップを用いて下腹部及び頸部背側術創を縫合する。

※本書式に記載された術式は、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社手術グループ手順書「ラット 大腸内カニュレーション術」(承認No.1101)の内容に準ずる。

飼育、取扱いについて

頸背部よりカテーテルが出ているため個別飼育をお願いします。カテーテルがケージトップに挟まる可能性がございますので、ケージトップが低いタイプは避けて飼育をしてください。

カテーテル開通性維持のため、2-3日に1回はメンテナンスを実施してください。

カテーテルのメンテナンス方法としてカテーテル内にカテーテルデッドボリューム量の生理食塩水を注入してください。なお、デッドボリューム量については手術動物証明書に記載されていますので、その値をご参照ください。

ご案内事項

大腸カニュレーションは、結腸への薬液投与を目的とした施術となっております。施術による腸管の蠕動運動、ならびに吸収への影響等についての確認には至っておりません。試験の目的に応じて、関連文献等を事前にご確認ください。

配送情報

- 輸送箱：プラスチッククレート
- 梱包形態：仕切り板による個別梱包(1-3匹/クレート)



お問い合わせ

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-17-6 イノテックビル11F
TEL: 045(474)9350 Email: ask@jax.or.jp